相談の具体的な内容(抜粋)

■ パートナーに関する相談
・パートナーへの告知について
・セイファーセックスについて
・パートナーの感染

■ プログラムや他の陽性者との交流について
・PGMの参加について
・他の陽性者と交流できる場について

■ HIV感染によって生じた対人関係上の問題
・自分が感染させたかもしれない相手とのトラブル
・告知をした相手が拒否的

検査を受けてから医療にたどりつくまでの相談

■医療にたどり着く前の相談(n=30)

医療機関の選択に関する相談	16件
海外からの相談	5件
経済的に余裕がない	2件
健康保険証がない	2件
滞在資格がないので病院にいけない	2件
他の持病もあり行きたくない	1件
精神的に不安定で耐えられない	1件

→検査後の支援が不足している。

考察

◆ 相談者は陽性者だけでなく、陽性者から告知を受けた周囲の人も相談できる場を必要としていた。

◆ 相談のきっかけとなった情報源は、webから情報を得て自発的に相談する例が多く、今後web上の情報提供の更なる充実が必要である。また、個人の口コミや地域の連携、医療従事者からの紹介も多く、今後も質の高いサービス提供への努力が必要である。

◆ 連絡のタイミングとしては、半数が告知直後の相談で、告知直後において相談のニーズがあることが示唆された。また、医療にたどり着くまでの相談もあり告知直後の情報提供や支援の重要性が考えられた。

まとめ

抗体検査をすることは、「目的」ではなく
「始まり」である。
HIVと共に生きるためのケア・支援の
スタートである。
HIVであろうとなかろうと、安心して自分の健康情報を知り、安心してそれと上手に付き合いながら生きてゆける環境を創ろう。

[redacted]

まとめ

抗体検査をすることは、「目的」ではなく
「始まり」である。
HIVと共に生きるためのケア・支援の
スタートである。
HIVであろうとなかろうと、安心して自分の健
康情報を知り、安心してそれと上手に付き合
いながら生きてゆける環境を創ろう。